

2013～2014年度

大磯ロータリークラブ会報

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30~13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 鈴木 勝

会長エレクト 守屋 紀忠

幹事 守屋 紀忠

第2279回 例会

平成26年5月8日 (晴) No.39

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：我等の生業

◇プログラム ・5月15日：フォーラム ・5月22日：フォーラム

◇出席報告	例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率	◇欠席者(5名)
	2279回	18(15)	10	66.67%	—	—	小林、宮澤、石山、原卓太田さん
	2277回	18(15)	7	46.67%	2	60.00%	◇メイクアップ(2名)宮澤、片野さん

◇おめでとうございます



誕生日祝：
百瀬恵美子さん
(5/8)

皆さん有り難う
ございました。今日で六十ウン才・・・
本当は67才で70
に手が届くところ
までしましたが、

今日から又1年頑張っていきたいと思いまーす！

◇原SAA：本日の食事は洋食で、ホテル特製のハンバーグです。



◇ひとこと

笹尾 政儀さん

台湾-資源の宝庫、日清
戦争：明治政府が朝鮮対
してとって来た基本政策は
朝鮮を完全な独立国として
国交を結ぶ事であった。

それは同時に清国の権限
を公然と否認する事とな
り、日本は清国と事毎に対立し、日清戦争の発端で
もある。

明治27年~28年の日清戦争の結果、下関条約に於
初代総督は鹿児島県出身の樺山資紀(カバヤマス
いて清国から台湾を割譲されて日本領となる。明
治28年以後日本の植民地として日本の台湾統治が始
まった。

ケノリ)海軍大将(大磯にも住まれていた)でした、

第二代総督 (山口県) 桂 太郎

第三代総督 (山口県) 乃木 希典

第四代総督 (山口県) 児玉源太郎

・
・

第十九代総督(宮城県) 安藤 利吉

昭和19年12月30日=20年10月25日まで

当時総督府は陸海軍の大將又は中將に親任される事になっていた。

台湾は第一次世界大戦後、南洋諸島が日本の委任統治領となった後も益々その重要性が認識され、太平洋戦争に向けて一大軍事基地としての性格を付与された。

◇会長報告

百瀬 恵美子会長代理

今日はお誕生日お祝い有り難うございます。

1. 先週の理事会報告：原アレックス伸郎氏からのデイトンに桜を1000本植樹するについての協力依頼は情勢が固まるまで、少しの間検討する事に致しました。



2. 先週嬉しいニュースがありました。富岡製糸工場が世界遺産に登録される事になりました。

去年2度も行くチャンスがあって、ボランティアの方の工場内の案内が甦ってきて群馬県がもう一つ世界遺産を持つ事になられて素晴らしいなと思いました。工場だけでなく周辺の蚕を養う家など4カ所を含めて6月に登録されるという事です。

3. 河本さん東北のお土産(リンゴ大福)有り難うございました。



4. 先週守屋幹事と一緒に鈴木勝さんに会ってきました。新年度より例会出席して下さいます。

とても元気で、5月25日の美化キャンペーンに来て下さる連絡を頂きました。

◇幹事報告

守屋 紀忠幹事

例会変更：平塚南RC

◇委員会報告

☆片野一雄さん：



6月総会で江の島水族館に行くので、水族館館長をしている友人の堀井君に電話しました。大磯ロータリークラブが来られる

事は誇りというか嬉しい事で歓迎する、イルカショーも特別な事をやろうかなどと言ってくれ、責任者

も来てくれるとの事でした。期待して下さい。

☆スマイルボックス

井上 浩吉さん

・百瀬 恵美子さん：片野さん卓話たのしみです。お誕生日祝いありがとうございます。



・守屋 紀忠さん：百瀬さん、誕生日おめでとうございます。片野さん、卓話よろしくお祈りします。

・河本 親秀さん：百瀬さん お誕生日おめでとうございます。片野さん 卓話楽しみです。

・笹尾 政儀さん：百瀬さんのお誕生日を祝福します。片野さんの卓話楽しみです。

・新宅 文雄さん：百瀬会長誕生日おめでとうございます。片野さん卓話楽しみにしています。

◇卓話

◆◆◆戦艦大和忌に思う◆◆◆

片野 一雄さん



桜の季節が半ば過ぎる頃、戦艦「大和」の命日(1945年4月7日)が近づく。

この日は、世界最大の戦艦と言われた「大和」が沖縄へ特攻出撃する途中、薩南諸島・徳之島の北西370キロのところで、アメリカ軍の雷撃機・爆撃機の集中攻撃を受けて、あえなく沈没した日である。

排水量6万4000トン、46センチ砲9門を備える「大和」は日本海軍最後の切り札であった。

4月1日に沖縄本土へ上陸を開始した米軍を巨大な46センチ砲で粉碎するつもりであった。ところが、米空母16隻の航空機360機による攻撃が午後零時半ごろから2時間、波状的に「大和」に加えられた。

2時半ごろ、2000発の火柱を吹き上げた。殆ど使う機会がなかった大量の砲弾が爆発したのである。

特攻出撃した約3千人のうち生存者は276人だった。

撃沈である。伊藤整一・第二艦隊司令長官と有馬幸作・艦長は「大和」と運命を共にした。



1941年秋、最高速度を測定中の戦艦大和一原勝洋氏提供

敗因は何か？制空権のないところに戦艦のみで突入した事が、無謀な作戦であったといえよう。

時代は、航空機の時代に入っていたのである。開戦時、日本海軍の航空隊がハワイ・真珠湾とマレー沖海戦で、米英の戦艦を撃沈して以来、戦艦は航空兵力にはかなわない事が明らかとなり、その座を「空母」に譲ったのである。それを忘れた報いであつたらう。

「歳時記・春号」(小学館)の中で、偶然見つけた「大和」の俳句を紹介したい。

「大和」よりヨモツヒラサカスミレサク

川端展広

「ヨモツヒラサカ(黄泉平坂)」とは、現世と黄泉との境にある坂のこと。海底に眠る戦艦「大和」から「ヨモツヒラサカスミレサク」の打電あり、といった句だ。

海に沈んだ「戦艦大和」。その海底にも春がきて、現世と黄泉のあわいの坂にもスミレが咲くであろうとの、日本人の美しい季節感を詠んだもの、と読みとめた見たが、いかがであろうか。

